

せいめい小委員会報告

せいめい望遠鏡の共同利用・共同研究及び研究交流等に関する専門的事項について審議する。（SACとTACの両方の役割を兼ねる）

共同利用の実施や観測時間の割り当てなどについて要望やご意見ありましたらお願いします。

本田 敏志（兵庫県立大）

せいめい小委員会委員長（今月まで）

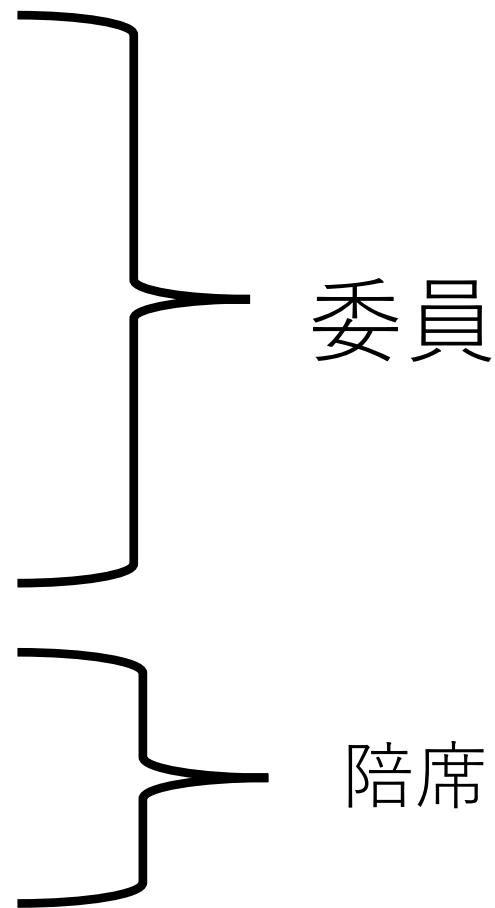
2023年9月29日光赤天連総会

※今年9月まで 1期2年、通常2期4年

せいめい小委員会

- 岩室史英 (京都大)
- 小西美穂子 (大分大)
- 福井暁彦 (東京大) ※
- 本田敏志 (兵庫県立大) ※
- 前原裕之 (国立天文台) ※
- 松岡良樹 (愛媛大) ※
- 太田耕司 (京都大)
- 泉浦秀行 (国立天文台)
- 田實晃人 (国立天文台)

現委員会メンバー



今年10月からの

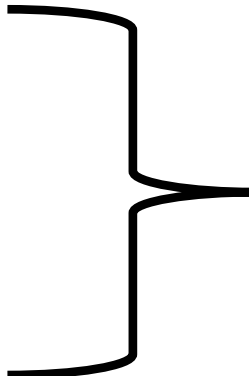
せいめい小委員会

新委員会メンバー

- 岩室史英（京都大）
- 小西美穂子（大分大）
- 伊藤洋一（兵庫県立大）
- 志達めぐみ（愛媛大）
- 田中雅臣（東北大）
- 鳥羽儀樹（国立天文台ハワイ）
- 太田耕司（京都大）
- 前原裕之（国立天文台）
- 泉浦秀行（国立天文台）
- 田實晃人（国立天文台）



委員



陪席

共同利用観測（2023）

- 2023A（2023年1-6月） 65.5夜（エンジニアリング等を除いた時間を京大と分けたもの）
 - クラシカル10件(**55.5**夜)、ToO 15件(クラシカルと両方の2件含む) (**72.5**夜)の応募、
 - クラシカル8件(**51.5**夜)、ToO15件 (**37.5**夜) を採択した。
- 2023B（2023年7-12月） 62.5夜（GAOES-RVのGT3夜含む）
 - クラシカル17件(**110**夜)、ToO 17件(クラシカルと両方の2件含む) (**66.75**夜)の応募、
 - クラシカル12件(**54**夜)、ToO15件 (**44.55**夜) を採択した。

クラシカル観測は前期まで極端な増減はなかったが、23後期で応募が激増
→ GAOES-RVの観測提案（新規ユーザー）が増えた

次期公募（2024A：1-6月 65夜）募集中（締め切り10月25日）

(共同利用) 観測の実施について

- 原則は観測提案者が現地で観測を行う。
- ToO観測は現地の観測者に代理で観測してもらうこともできる。
- 観測者確保の問題が大きくなってきた。
- 特に補填時間の観測対応はかなり困難。
 - 急にわずかな時間を割り当てられても対応に困る。

- 学生のみでの観測を可能に (ただし認められた者に限る) 。
- 完全 (無人) リモート観測の対応 (ただし認められた者に限る) 。
- キュー観測の実施を進める (透明度、シーイングなど観測条件等の判断は要検討) 。

- クラシカルは補填時間込みで時間を割り当てる (ToOによる補填無し) ?
 - 採択課題数は減る可能性がある。
- 短期募集のようなものを行うか？

要望・ご意見などをお願いします

- GAOES-RVが共同利用観測で利用可能になった
 - 新規ユーザーの拡大。
 - 新装置の利用可能に伴って競争力が上がった。
 - さらに新装置の共同利用への公開をお願いします。
- ToO補填時間の割り当てについて
 - 短期間での割り当てが増え、対応が難しくなっている。
 - クラシカル観測には補填時間込みを事前に割り当てで良いか？
 - 採択できる課題の数は減る可能性がある。
 - ToO含め可能な場合はP.I.がリモート観測で対応する？
- キュー観測/自動観測について
 - キュー観測はどこまでを目指すか要検討
 - まずは条件保証なしのリスクシェアで始めたい。
 - 興味のあるユーザーは試験観測へ積極的に参加してほしい。